

PRAEVIDENTIA DAILY (8月19日)

昨日までの世界：豪米中期金利差の再拡大が豪ドルを下支え

先週金曜は手掛かり難の中、豪ドルとNZドルが上昇した一方、円やユーロなど欧州通貨は対ドルで下落、全体として明確な方向感に欠ける展開だった。ドル/円相場は、東京時間は日経平均株価の持ち直しに下支えされ97円丁度近辺から97円台後半へ持ち直した後、欧米時間は97円台半ばを挟んだもみあいの展開となった。米資本市場では米株価が下落する一方で米長期債利回りは上昇が続き、Fedの資産購入ペース縮小懸念を受けた動きといえるが、ドル/円相場にとっては相反するシグナルであるため方向性が出にくかった。発表された米経済指標は住宅着工（89.6万件、市場予想90.0万件）、建設許可（94.3万件、市場予想94.5万件）、ミシガン大消費者信頼感指数（80.0、市場予想85.2）といずれも市場予想を下回ったが、市場の反応は限定的だった。

豪ドルは中国株価や米株価の下落にも拘らず上昇している。週間ベースでみると、豪長期債利回り（10年）は先週27bps上昇、米国（+25bps）や欧州とほぼ同程度の上昇だが、2年物では17bps上昇と米国（+4bps）を大きく上回る上昇幅となっており、豪利下げ期待の後退と豪米中期金利差の再拡大が豪ドルを下支えしているとみられる（下表の「前週比」を参照）。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と主な変動要因

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	-0.00	-0.01	-0.01	+0.05	+0.06	+0.01	-0.3	-0.7	+0.1	+0.7
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価差
ユーロ/ドル	-0.1	-0.00	-0.01	-0.01	-0.06	-0.00	+0.06	+0.5	-0.3	+0.7	-0.07
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.5	+0.04	+0.04	-0.01	+0.02	+0.08	+0.06	+0.0	-0.3	-0.6	+0.0
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.4	-0.02	-0.03	-0.01	-0.07	-0.01	+0.06	+0.0	-0.3	-0.6	+0.0
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	+0.00	-0.01	-0.01	-0.04	+0.02	+0.06	+0.3	-0.3		

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

前週比

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+1.4	+0.04	+0.04	-0.00	+0.25	+0.25	+0.00	-2.1	+0.3	+1.4	+3.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価差
ユーロ/ドル	-0.1	+0.02	+0.06	+0.04	-0.05	+0.20	+0.25	+0.9	-2.1	+3.3	-0.27
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.2	+0.13	+0.17	+0.04	+0.01	+0.26	+0.25	-1.0	-2.1	+0.8	+2.5
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.8	+0.08	+0.12	+0.04	+0.02	+0.27	+0.25	-1.0	-2.1	+0.8	+2.5
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.8	+0.04	+0.08	+0.04	-0.00	+0.24	+0.25	-1.3	-2.1		

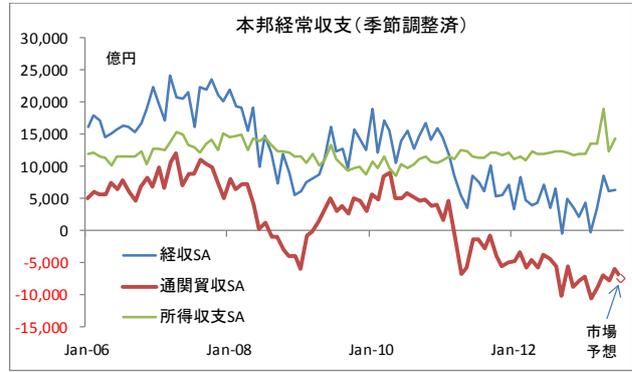
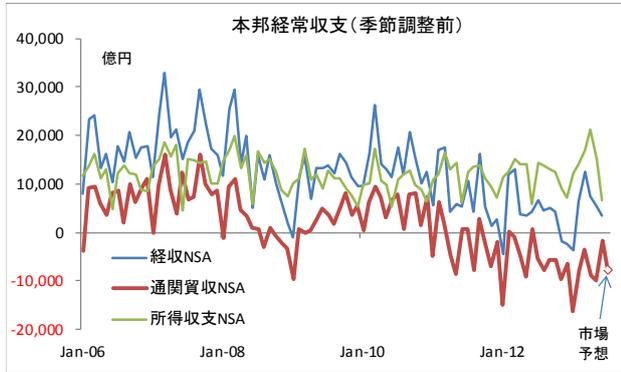
(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょうの「高慢な偏見」：夏枯れ相場が続く

今週は米住宅関連指標やFOMC議事要旨の発表しがなく、通常なら注目度が高いカンザスシティ連銀主催のジャクソンホール・シンポジウム(22-24日)も、Bernanke・FRB議長、Draghi・ECB総裁、Carney・BoE総裁など主要中銀総裁が出席しないことから、例年より注目度は著しく低い(但し黒田日銀総裁は出席、次期議長候補の一人であるYellen副議長は進行役として出席)。また日本はお盆休みが終了するが欧米では引き続き夏

季休暇中の市場参加者も多く、主要通貨相場は明確な方向感が出にくい展開が続こう。

こうした中、本日の相場材料も本邦7月通関貿易収支（8：50、前月-1823億円、市場予想-7735億円、季節調整前）しかない。市場予想では輸入の伸び（前年比+16.0%）が輸出（+12.8%）を上回り、貿易赤字が-7735億円へ拡大する予想となっている。円安や原油高による輸入増が、通常効果が出るまでに時間がかかる円安効果による輸出増を予想以上に上回る場合、最近の米長期債利回り上昇傾向と相俟ってドル/円の下支え要因となり得る。但し最近では本邦貿易赤字の一方向の拡大傾向に一服感があり、市場の関心もあまり高くないため、余程大きく市場予想から乖離しない限り、ドル/円相場に強い方向性をもたらす材料とはならないだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。